

# ことばの迷い道

## 寂しさいろいろ、 惜しさいろいろ

ハン ビルナム  
韓 必南

東京外国語大学非常勤講師  
中央大学兼任講師

ふたつまたは複数の言語を照らし合わせてその類似点と相異点を研究し、それぞれの言語の特徴を明らかにしていく分野を対照言語学という。

わたしが対照言語学的に研究している日本語と朝鮮語は、敬語があり、助詞（てにをは）をもち、漢語由来の語彙もたくさんあるなど、共通点が多いということがよく知られている。しかし事物の認識の仕方、表現の仕方は言語によって各々異なるので、当然、両言語間での対応関係も一対一できれいにそろうわけではない。とりわけ形容詞となると、日本語を朝鮮語に訳そうとする際にも、またその逆の際にも、厄介な場合が少なからずある。

例えば、朝鮮語母語話者に日本語の「寂しい」は朝鮮語で何と言うかと聞くと、「ウエロプタ」と答える者が多いだろう。だからといって日本語で「寂しい」を用いる文脈で、朝鮮語では常に「ウエロプタ」を使えばいいのかというと、そうとは限らない。日本語の「寂しい」は、「独りぼっちで寂しい」「友達に会えなくなつて寂しい」「物静かで寂しい」「口が寂しい」などなど、場面によって「孤独だ」「侘しい」「うら悲しい」「切ない」「物足りない」などと置き換えられるような、多様な感情をあらわすのに用いられる形容である。

一方で、朝鮮語では「独りぼっちで寂しい」に当たる表現は「ウエロプタ」だが、「友達に会えなくなつて寂しい」なら「ソボンパダ」や「アシユイプタ」、「物静かで寂しい」の場合には「チヨ

クチヨカダ」と、それぞれの場面での「寂しい」が、別の語彙であらわされる。さらに、「つきあっている人がいなくて寂しい」という文脈においては、砕けた表現として「ウエロプタ」に代わつて「チュプタ」（寒い）という比喩的表現も使われる。このように日本語の「寂しい」に対する朝鮮語の対応表現は複数あるのであって、一対一の関係は成り立たない。

先ほどの「友達に会えなくなつて寂しい」の「アシユイプタ」は、日本語にするなら「惜しい」や「残念だ」におおむね相当するもので、名残惜しい気持ちや、何かが足りなくて欲しい気持ち、残念な気持ちなどをあらわすのに使われる。例えば、「金銭的に余裕がなくてお金が欲しい」ときは「トニ・アシユイプタ」（お金がアシユイプタ）と言い、「不足しているものがないため困ることはない」と言いたいときは「アシユイウン・ゲ・オプタ」（アシユイプタなものがない）、スポーツ試合などの「残念で惜しい結果」に対しては「アシユイウン・キョルガ」（アシユイプタな結果）のように使われる。一方、サッカーの試合を観戦していて、もう少しのところまでゴールを逃してしまったとき、日本語では「惜しい！」という人が多いように思うが、同じ状況において朝鮮語では、一般に「アカプタ！」と言うことが多い。「アカプタ」という朝鮮語は、「惜しい」というよりは、「もったいない」により意味合いの近そうな語である。日本語と微妙にずれていて面白い朝鮮語はまだたくさんあるが、紹介しきれないのが本当にアシユイプタ。